

葉に甘えて、車から窗外を歌い始めた。食事をし  
た。お正月の朝十時ごろに新年の電話をしたところ、朝刊がこないと嘆いていました。父母がコーヒー好きでしたので、幼いころからわが家は日本茶よりコーヒーの家でした。親戚の人から「子供なのにコーヒーを飲んで大丈夫？」とよく言われたものです。そのときはまだインスタントコーヒーを飲んでいたのであるが、ある日、コーヒーメーカーなる物が家に届きました。ポコポコと音を出しながらお湯がコーヒー豆に注がれ、良い香りが漂っていくのがうれしかったのを思い出します。このときの体験がコーヒー店開業

自分サイズのお店！ こんなコーヒー屋さんを開きたい！。もう十年以上前になりますが、どんなお店を作ろうかと悩んでいた私は愛知県岡崎市で「これだ！」というお店を見つけた。

先日、三十年来の友人 三人で冬を元気に乗り切 へ導いてくれたのでしょうか。 さて話は戻って、住宅街にひっそりとたたずむお店を偶然見つけて入ったところ、何とも気持ちのいいお店。六代目の女性が一人でやっていたら、十代の女性が一人でやっていたら、客席数十五席ほどのお店。清潔でコーヒーの香りが店内に漂い、お客さまが談笑しています。店主一人のお店で

# 民 報 サ ロ ン

ることにし、美濃紙を持ち、二元気に春を迎えよう」と約束しました。

先日、三十年来の友人 三人で冬を元気に乗り切 へ導いてくれたのでしょうか。

もうそのころは自分たちのお店の開業が決まっていたのですが、このお店は私たちがそれまで頭の中で漫然と考えていた「こういうお店にしたい」というイメージを形にしたものでした。その店主には親切に何でも教えていただきました。本当に感謝しています。当店のコムセプトは、「女性が一人で

## 自分サイズのお店



長谷川 修司

すから、注文が重なるとうしても時間がかかります。でも誰も文句を言いません。本を読んだり、お友達とお話をしたりして、まるで出来るかのような雰囲気。狭い空間にオーナーの思いがぎゅっと詰まっています、そこにいる誰もが幸せな気持ちになれる場所でした。 コーヒー屋さん探しが始まります。そ

のときの経験で、いろいろなお店の気に入ったところを少しずつですが自分たちのお店にも取り入れました。カップをお客さまに選んでいただくか、お手洗いのお手拭きはハンドタオルにし、歯ブラシを置くなど。

もちろんコーヒーはおいしいものを探しました。コーヒーの生豆(なまめ)を自分で焙煎(ばいせん)する「自家焙煎」の店にして鮮度のいいコーヒーを提供したいとも考えていました。行き着いたのは仲間がコーヒー豆を農家からじかに買い付ける団体「LCF」でした。誰でも手に入れられるコーヒー豆ではなく、このお店でしか飲めない味を出したかったからです。仲間任せではなく私自身も平成十八年から直接農園を訪問し、現地の農家と交流を深めています。現地に行くたびに農家の苦労が分かり、コーヒー豆がおいしくさえ思えることがあります。

(矢祭町小田川、珈琲香坊店主)

紙い合フリーダイヤル  
本問 0120-0803344

除く午前10時〜午後  
まで受け付けてい